

J S N A 推計に関する意見メモ

2010年8月3日

中村 洋一

1. 現行のコモ法および付加価値法を中心とする推計システムは、精度、速度の両面で不十分である。GDPの2%に迫る不突号があるにもかかわらず、生産側推計と支出側推計の調整を行う時間的余裕がない。
2. これまで安定的に入手できた基礎データが失われる。工業統計ぬきの「代替推計」で精度と速度がさらに低下する恐れがある。
3. 「基本計画」の諸課題に対応するには推計システムの変更が必要だが、システム自体がブラックボックスになっており、必要な変更ができない恐れがある。
4. 現行の推計システムの改変ではなく、新しいシステムを設計・構築するための独立のプロジェクトを立ち上げる必要がある。新しいシステムは次のような機能を備えることが望ましい。
 - ・コモ法の拡充（中間消費、最終需要の推計に利用する情報の拡大）
 - ・所得面を加えた3面推計による精度の検証
 - ・SUT/IOTによる計数調整の枠組み
 - ・確々報、確報からQEまでの一貫したデータベース
 - ・関係部局によるデータベースの共有
 - ・08SNAへの対応
5. 新しいシステムの設計・構築は来年度に着手し、2016年度までに完成することをめざす。これにより、確報推計に工業統計が利用可能でなくなる場合にも、推計精度を確保することが期待できる。